

生ごみゼロを田舎って

富士宮市内小学校

新村さん

わたしは、学校で、「ごみはどこへ」というじゆ業をし、ごみ処理場へ社会科見学に行きました。そして、家から出たごみの種類と量を調べ、ごみをへらす大切さを知りました。ごみはリサイクルやリユースをする物もありますが、多くはもやして最終処分場でうめ立てられます。しかし、もやしてしまうと、けむりが原因で、空気がよごれり、地球温暖化につながってしまいます。さらに、はいをすてる最終処分場も多くあるわけでもないのです、いっばいになってしまいます。だから、もやすごみをリデュースしごみをへらすことをして地球をきれいなじょうたいに保てるようにしようと思いました。

家では生ごみがかならず出ていました。そこでキエーロという生ごみ処理器を作ることになりました。キエーロは黒土を大きな入れ物に入れただけの物です。どのように「土だけで処理しているのか」というと、黒土の中にあるび生物が、生ごみを分かいして消めつさせてくれているからです。び生物が分かいしやすいように、生ごみを小さく切ったり、水をふくませる、土をよく混ぜ合わせ空気をふくませるこ

が大切です。

わたしの家では、七十リットルの黒土とたて五十四センチメートル、横七十二センチメートル、高さ三十センチメートルの入れ物をホームセンターで買ってきて、作りました。今、夏休みにどれくらい生ごみを処理できるかためています。七月二十一日から八月十二日まで、五千八百グラムをもえるごみに出していません。それでもまだ全てキエーロに入れられなくて、もえるごみとして出しています。キエーロの土の中にまだ分かいしきれいな生ごみが残っていたり、土をほってみて、くさいにおいがすると次の生ごみは入れられません。わたしの家では一日に約二百五十グラムの生ごみをへらしていますが、もう少しキエーロを大きくしたり、もう一つふやさなければ毎日の生ごみを処理できないと思います。また、キエーロの温度を毎日計って冬と夏の温度をくらべたいです。そうすることで、キエーロの処理量の変化を知り、ひつような土の量などを調べることもできます。

教科書では、一人あたり一日に約千グラムのごみを出していると書いてありました。わが家はふだん五人でくらしているのです、一日約五千グラムのごみを出しているという計算になります。わたしたちが生活する上で、ごみはかならず出ます。古紙やビンなどの種類を調べてみたり、もえるごみに出しているごみの重さを計ってみると、もっと

いみを入らずにコメントが見つかるかもしれません。